

県本部・活動拠点本部会議(8月13日・朝)議事要旨

■決まったこと、全体への連絡事項

●氷川地域への支援体制強化と宇城拠点との広域連携

・氷川拠点のチーム数が限られるため、すでに地域包括支援センター(包括)の支援に入っている宇城拠点メンバーが氷川包括の巡回・サポートを兼務・連携して実施するよう検討する。

●避難所閉鎖・退所における「在宅復帰追跡アセスメント」の徹底

・避難所の集約・閉鎖に伴い自宅に帰還する避難者(特に要配慮者)について、退所段階で個別アセスメント(自宅被害状況や課題)を実施し、保健センター・包括支援センター・保健師へ確実に情報共有・引継ぎを行う。最終目標の設定(避難者数ゼロ)

●各拠点配置表の可視化・全体共有

・各拠点(八代・宇城・氷川)の掲示板等に、どの都道府県 DWAT チームがどこを担当しているかを明記し、写真を撮影して LINE で全体共有する。

●ラピッドアセスメント(D24H)代行入力の実施

・現地で未入力となっているラピッドアセスメント票は、用紙写真を撮影して本部へ送信し、本部側でシステム代行入力を行う(熊本 DWAT の協力も活用)。

■各拠点からの報告 ※特記事項

●八代地域

- ・八代市総合体育館(アリーナ)にて外部業者による洗濯支援が開始。避難者 300 名のうち 60 名枠を確保し、その内 10 名分を「自分で洗濯が困難な要配慮者枠」として運用(月水金回収/水金月返却)。

●宇城地域

- ・宇土アリーナ(避難者 89 名/要配慮者 11 名)にて宇土市包括と現状共有・協議を実施。飛び地・山間部にある「三角防災行政センター(避難者 27 名)」へ熊本 DWAT 2 名が現地調査・アセスメントへ出発。
- ・避難所 3 箇所が 1 箇所へ集約されることに伴う在宅復帰者の把握。宇土アリーナで自衛隊入浴支援(17 時~22 時)が開始されたが、要配慮者(車椅子・カテーテル使用者等)の介助ニーズへの対応が課題。

●氷川地域

- ・教育委員会側から避難所閉鎖の意向が出ているが福祉課が未把握であったため、本日真意・スケジュールを確認し、要配慮者(約 12 名)の移行・在宅復帰に向けた出口戦略を立案。

■今後検討が必要な事項

●医療用エアコン付きtentを用いた八代拠点の整備

・八代アリーナ等で会議音声漏れる課題に対し、県社協経由で打診のある「エアコン付き医療用tent」を屋外等に設置し、本部会議室・個別相談室として活用することを検討。